令和３年度 男女共同参画に関する市民意識調査 報告書のポイント

調査の概要

調査対象：燕市内在住の満 18 歳以上の男女 2,000 人（住民基本台帳から無作為抽出）

調査方法：郵送配布、郵送回収またはウェブ回答

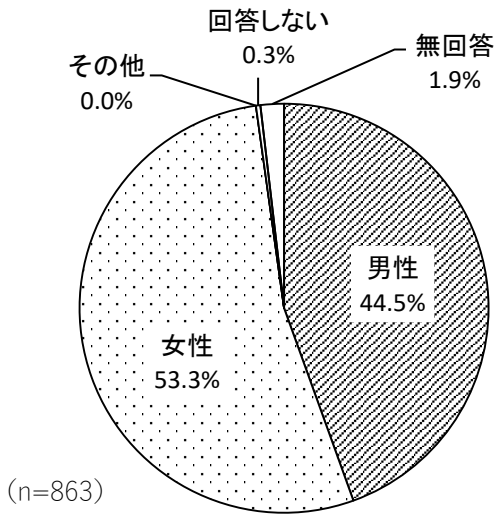
調査期間：令和３年 10 月 28 日～11 月 15 日

回収結果：有効回収数（率）＝ 863（43.2%）

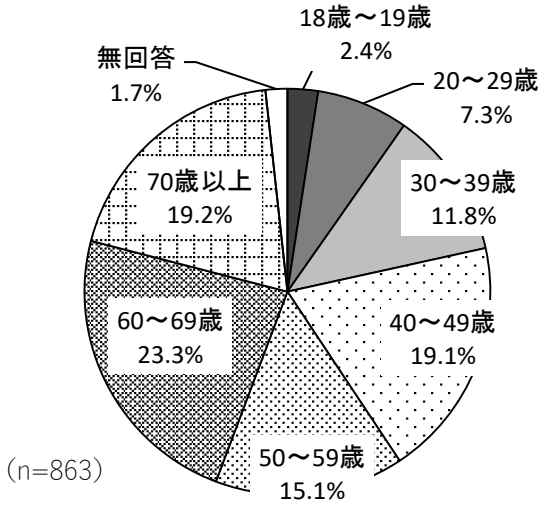
※前回調査（平成 27 年度）有効回収数（率）＝ 860（43.0%）

回答者の構成

■性別



■年齢



※前回調査（平成 27 年度）と比較して、回答者の構成に大きな差はみられない。

調査結果の概要

1. 男女の地位の平等について

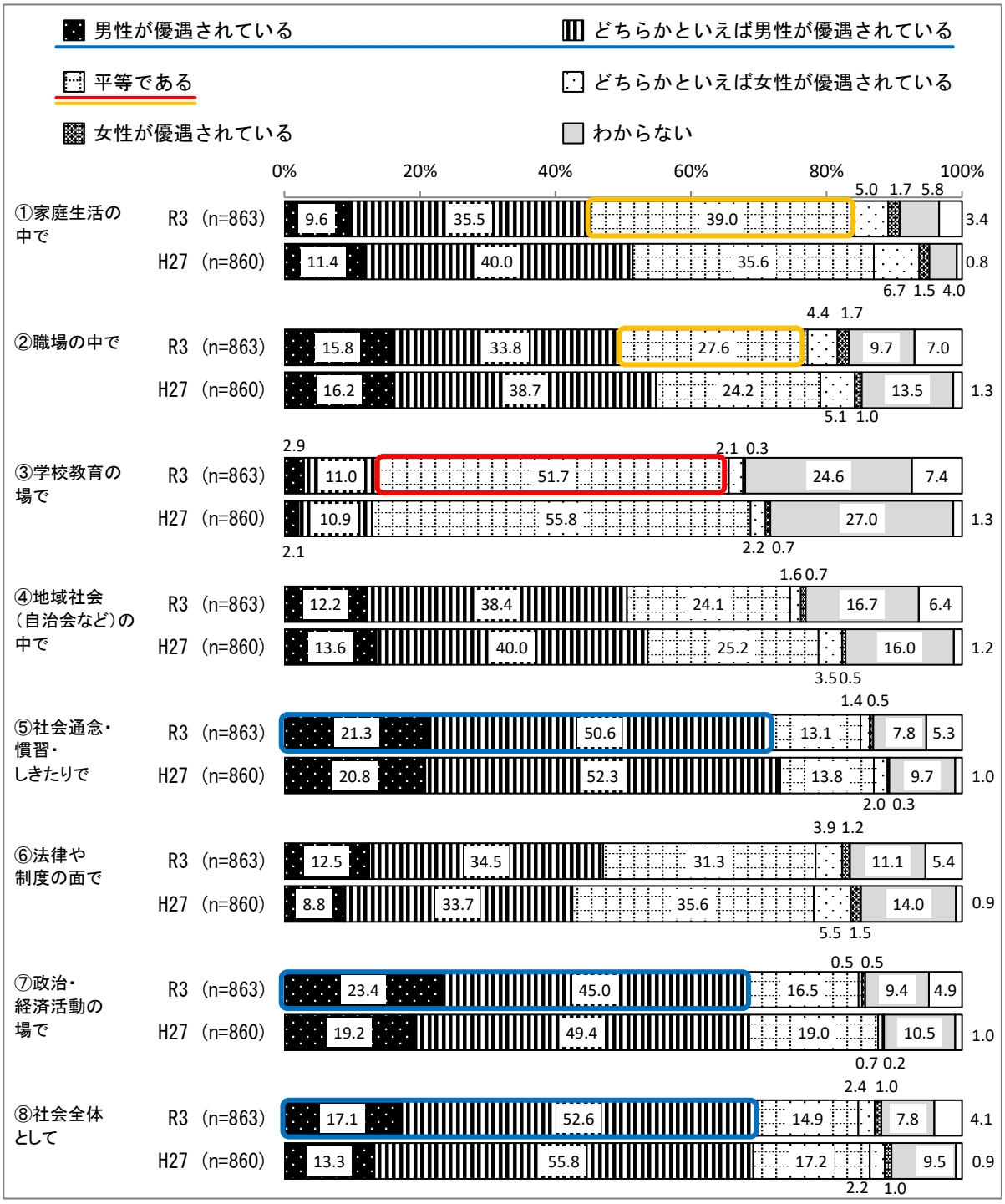
男女の地位の平等感〈問1〉

・8 つの場面・分野のうち、「平等である」の割合は、「学校教育の場で」（51.7%）が最も高い。次いで「家庭生活の中で」（39.0%）となっている。

・前回調査と比べて、「平等である」の割合は、「家庭生活の中で」（前回 35.6%→今回 39.0%）と「職場の中で」（前回 24.2%→今回 27.6%）ではやや増加したが、その他の場面ではやや減少した。

・学校教育以外の場面では、『男性優遇』が「平等である」を上回っている。特に「社会通念・慣習・しきたりで」「政治・経済活動の場で」「社会全体として」では、約７割が『男性優遇』と回答している。

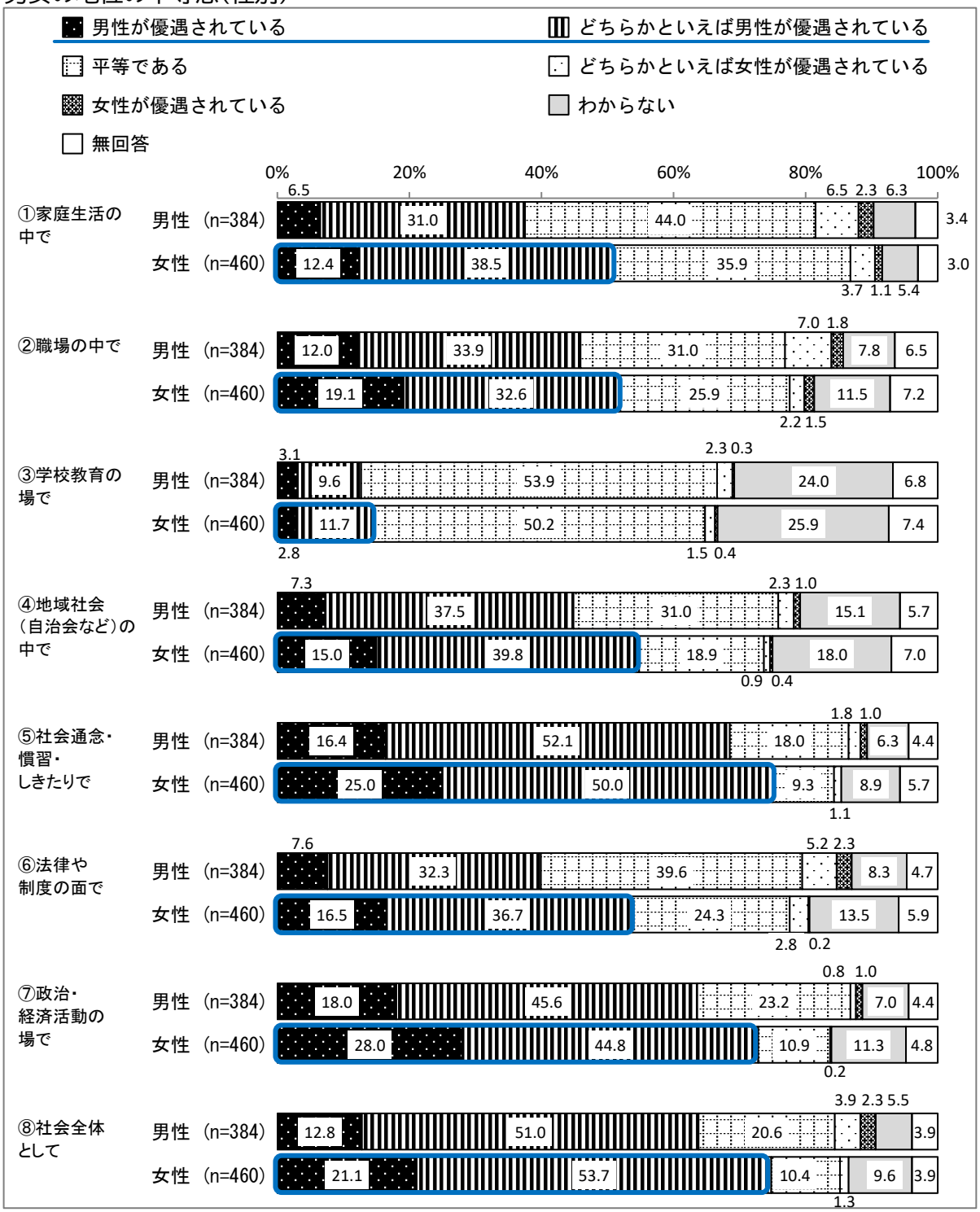
男女の地位の平等感（前回調査との比較）



※『男性優遇』は、「男性が優遇されている」＋「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計割合。

・性別にみると、どの場面においても『男性優遇』と回答した割合は、男性よりも女性の方が高くなっている。

男女の地位の平等感（性別）



※『男性優遇』は、「男性が優遇されている」＋「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計割合。

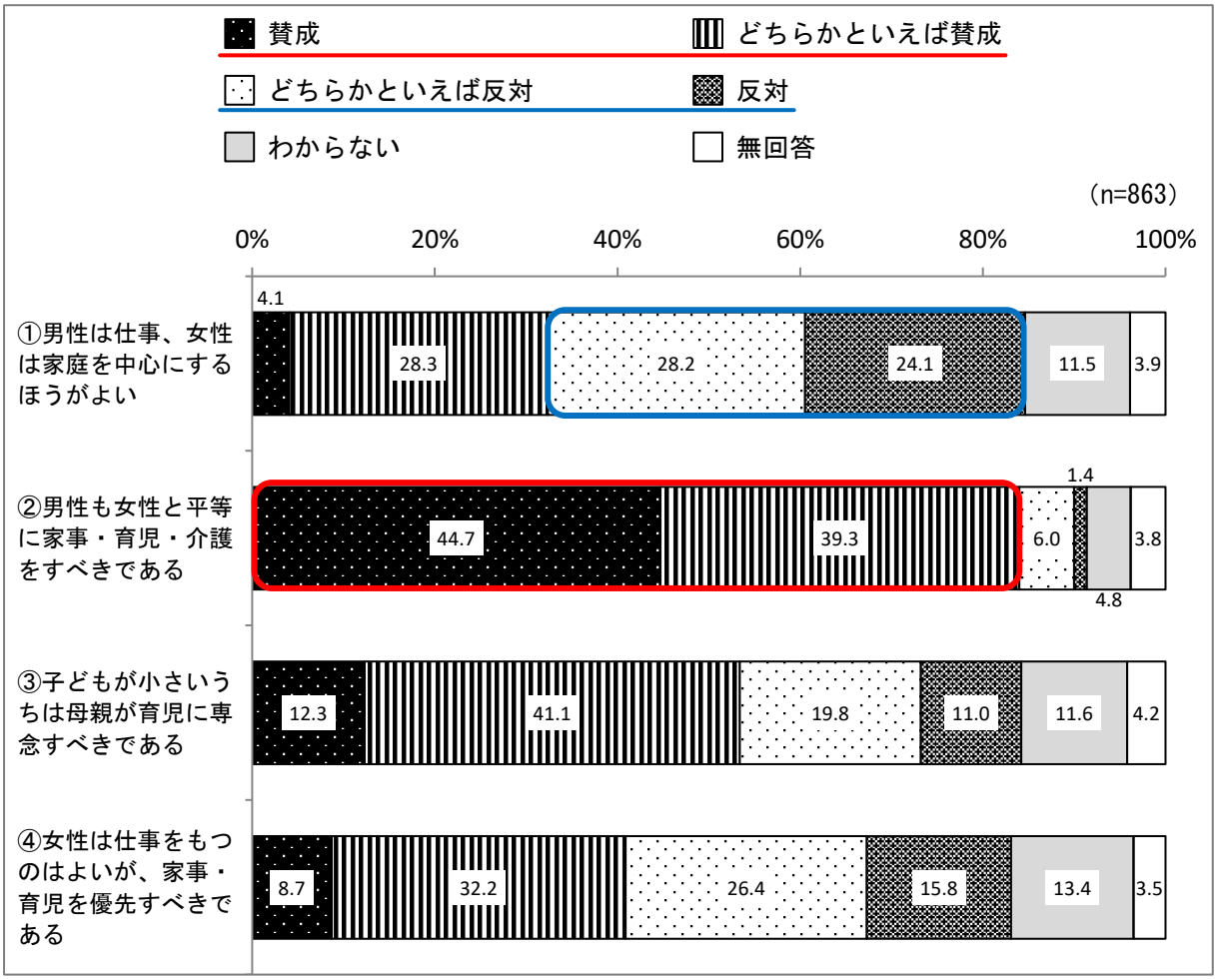
2. 男女の役割に関する考え方について

性別による役割分担意識〈問2〉

・「男性は仕事、女性は家庭を中心にする方がよい」という考え方については、『反対』(52.3%)が、『賛成』(32.4%)を上回っている。

・「男性も女性と平等に家事・育児・介護をすべきである」という考え方については、『賛成』(84.0%)が、『反対』(7.4%)を大きく上回っている。

性別による役割分担意識



※『賛成』は、「賛成」+「どちらかといえば賛成」の合計割合。
※『反対』は、「反対」+「どちらかといえば反対」の合計割合。

3. ワーク・ライフ・バランスについて

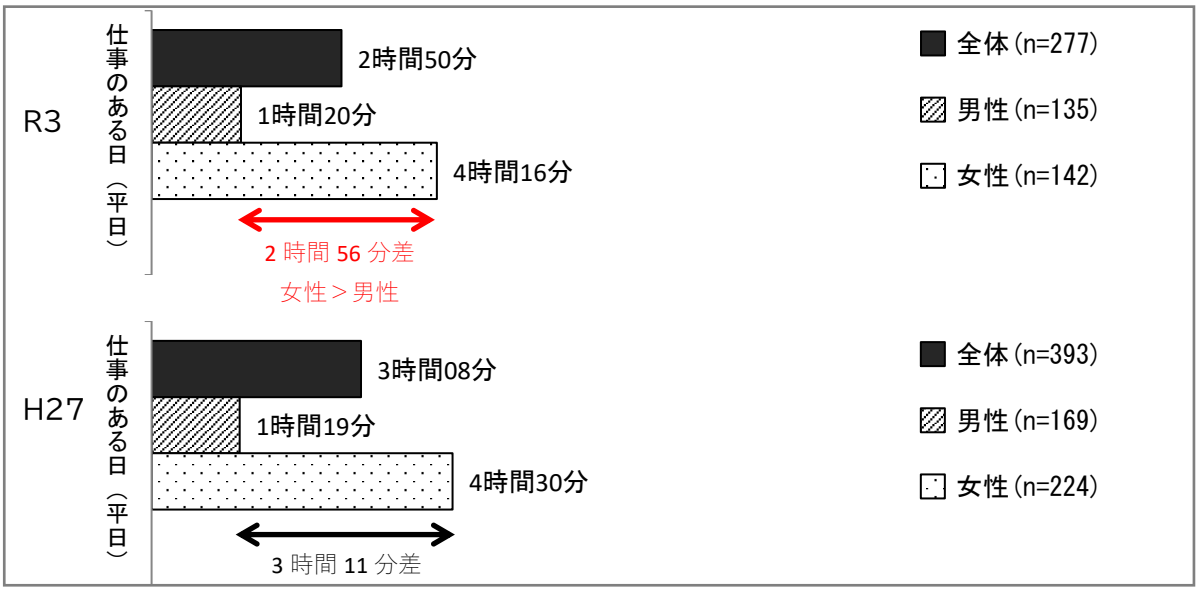
一日の生活時間について〈問3〉

・『家事・育児・介護』に費やす時間は、女性の方が男性よりも圧倒的に長い。

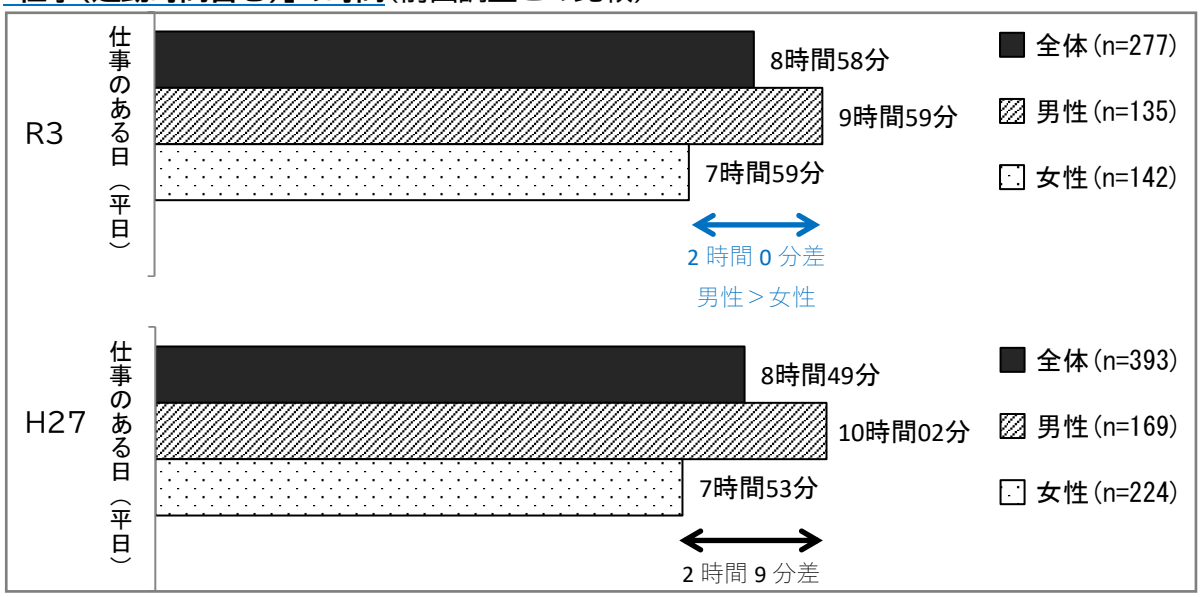
・共働き世帯の『家事・育児・介護』の時間は、「仕事のある日（平日）」においては、男性 1 時間 20 分、女性 4 時間 16 分と女性の方が 2 時間 56 分長く、前回調査の男女差 3 時間 11 分からやや縮まった。また、「仕事のない日（休日）」においても、男性 3 時間 45 分、女性 6 時間 14 分と女性の方が 2 時間 29 分長くなっている。

・共働き世帯の「仕事（通勤時間含む）」の時間は、男性 9 時間 59 分、女性 7 時間 59 分）と男性の方が 2 時間長く、前回調査の男女差 2 時間 9 分からやや縮まった。

共働き世帯の仕事のある日（平日）の
『家事・育児・介護』の時間（前回調査との比較）



共働き世帯の仕事のある日（平日）の
「仕事（通勤時間含む）」の時間（前回調査との比較）



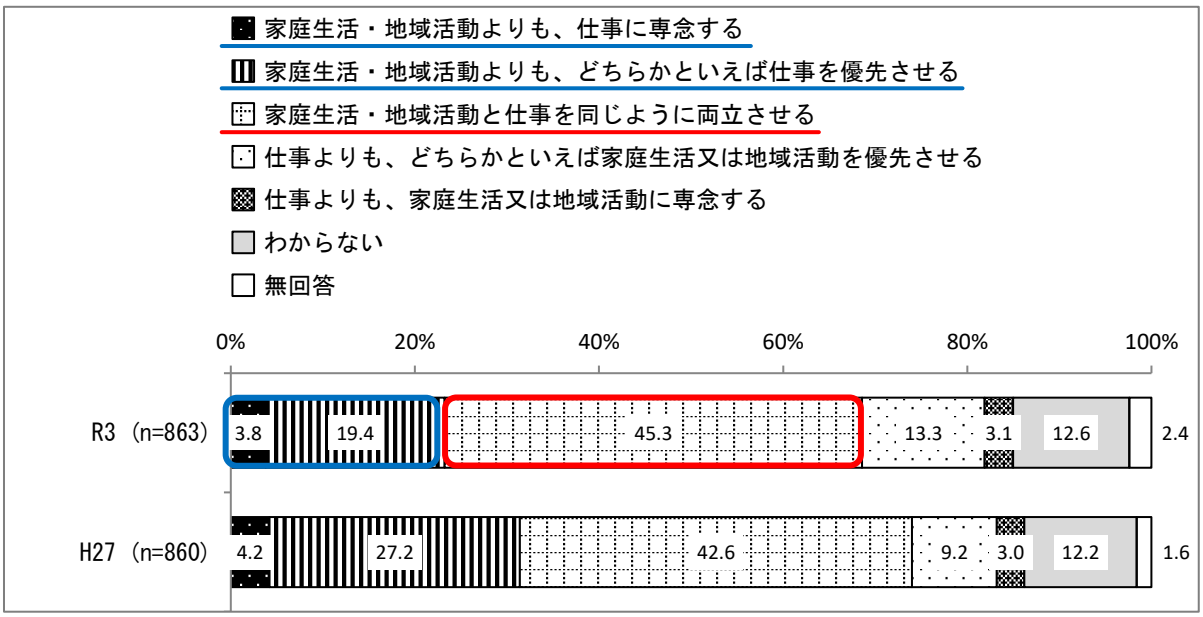
仕事と家庭生活・地域活動などの位置づけ〈問4〉

・「家庭生活・地域活動と仕事を同じように両立させる」（45.3%）が最も高い。

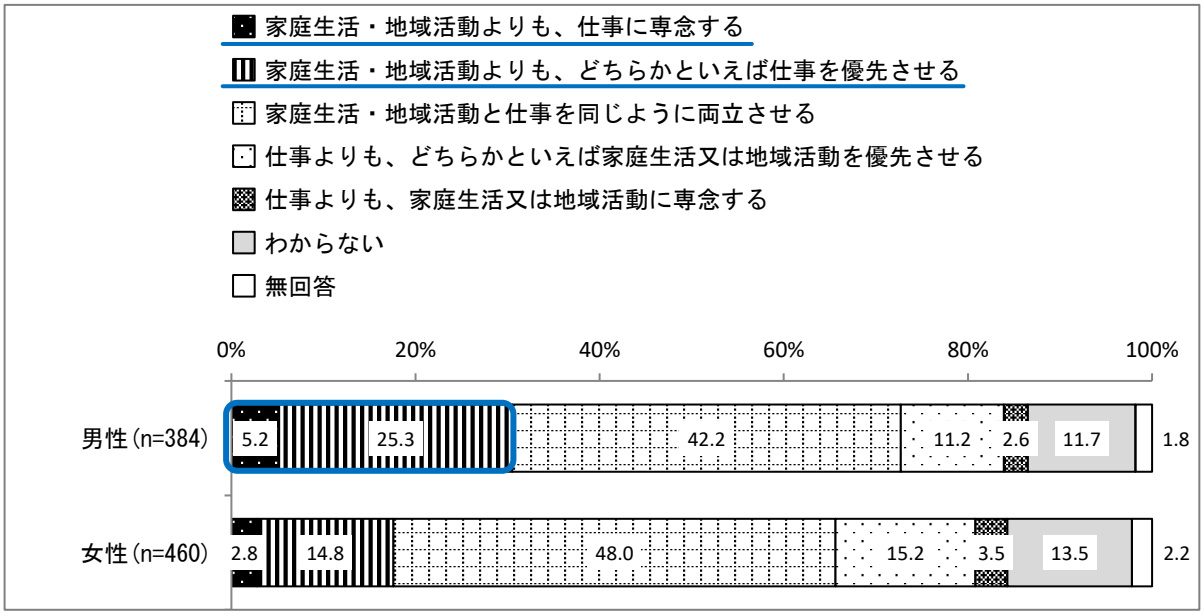
・前回調査と比べて、『仕事優先』（前回 31.4%→今回 23.2%）の割合は減少した。

・性別にみると、『仕事優先』の割合は、女性よりも男性の方が高くなっている。

仕事と家庭生活・地域活動などの位置づけ（前回調査との比較）



仕事と家庭生活・地域活動などの位置づけ（性別）



※『仕事優先』は、「仕事に専念する」＋「どちらかといえば仕事を優先させる」の合計割合。

男性の育児休業・介護休業の取得について〈問6、問6－1、問7〉

・男性が育児休業・介護休業を取得することについては、『賛成』が８割を超えている。

・『反対』の理由　※上位3つ

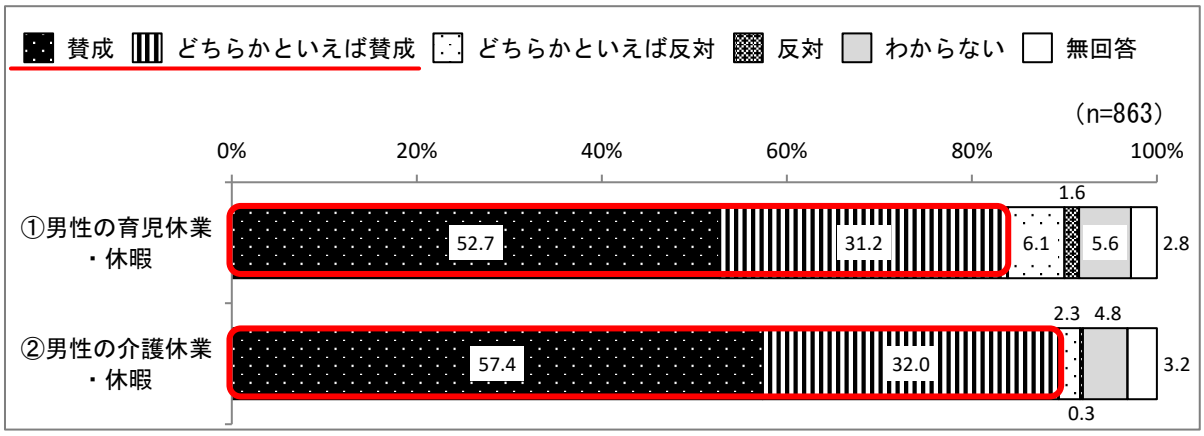
　・取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから（37.7%）

　・職場に取りやすい雰囲気がないから（34.8%）

　・取ると経済的に困るから（33.3%）

・男性の育児休業・介護休業への社会や企業の支援・理解は十分であると思う割合は、２割に満たない。

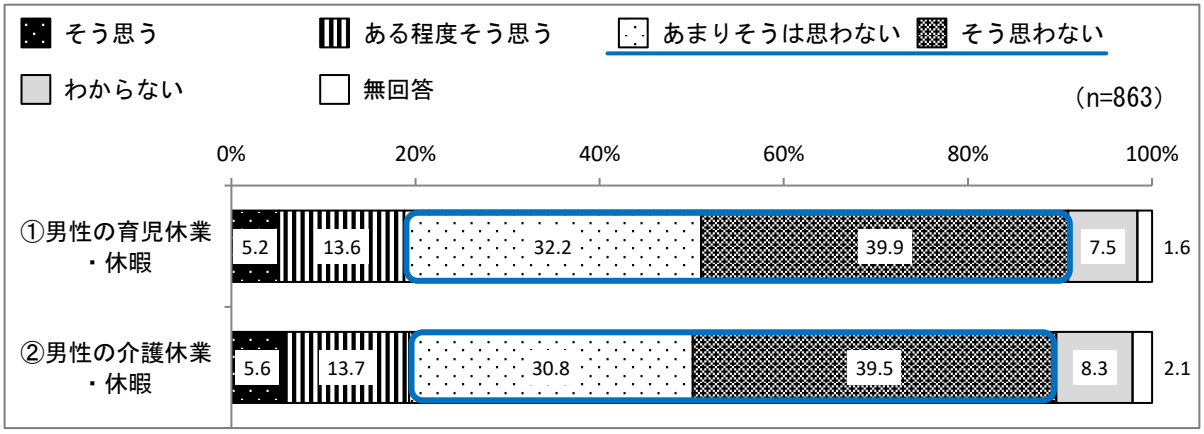
男性の育児休業・介護休業を取得することについて、どう思うか



※『賛成』は、「賛成」＋「どちらかといえば賛成」の合計割合。

※『反対』は、「反対」＋「どちらかといえば反対」の合計割合。

男性の育児休業・介護休業への社会や企業の支援・理解は十分だと思うか



4. 地域活動・女性の社会参画について

地域活動に女性のリーダーが少ない理由〈問12〉

※上位3つ

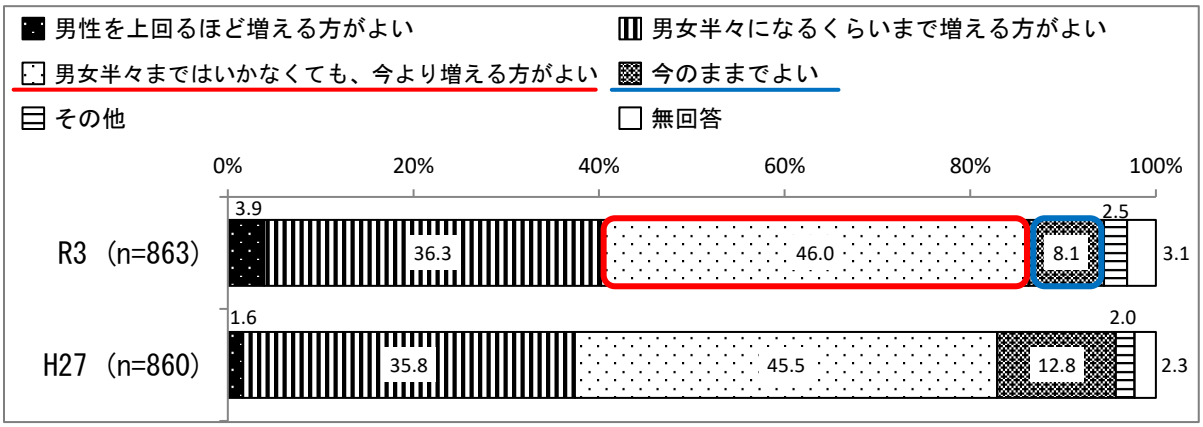
・男性中心の組織運営になっているから（51.3%）
・女性は家事・育児・介護などで忙しいから（43.2%）
・女性が責任のある役を引き受けたがらないから（38.0%）

政策・方針決定の場への女性の参画について〈問13〉

・「男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい」（46.0%）が最も高い。
　次いで、「男女半々になるくらいまで増える方がよい」（36.3%）となっている。

・「今のままでよい」（8.1%）は、前回調査の 12.8%からやや減少した。

政策・方針決定の場への女性の参画について（前回調査との比較）



女性が職業を持ち、働き続けるために必要なこと〈問15〉

※上位3つ

・育児・介護休業制度の充実（60.4%）
・保育サービスなどの整備充実（58.5%）
・賃金・昇給・昇進・昇格等の男女間格差解消（54.0%）

5. 男女の人権について

セクシュアル・ハラスメントの経験〈問16、問16－1〉

・セクハラを「受けたことがある」の割合は 12.6%で、前回調査の 10.6%から微増した。

・性別にみると、セクハラを「受けたことがある」（男性 4.2%、女性 19.6%）割合は、女性の方が高くなっている。

・受けたセクハラの内容 ※上位3つ
　・性的な経験・冗談を言ったり、聞いたりする（59.6%）
　・女のくせに男のくせにと差別的な言い方をする（46.8%）
　・相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、体にさわる（45.0%）

ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験〈問17～問21〉

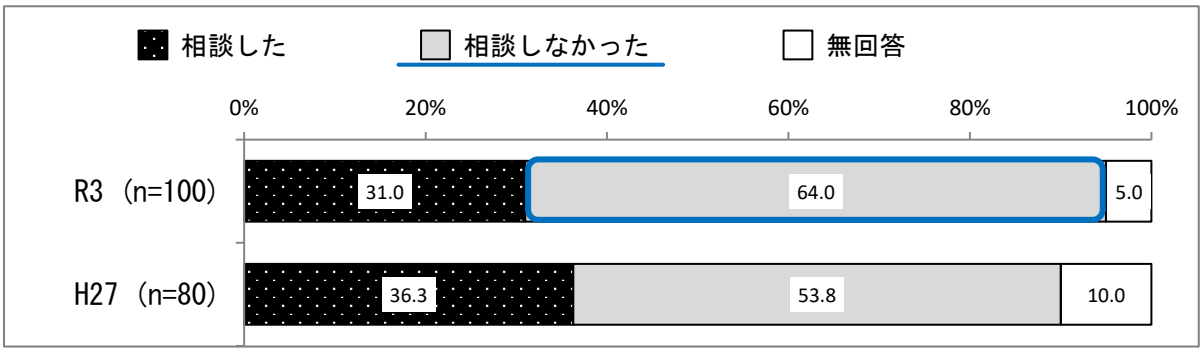
・DVを「振るわれたことがある」の割合は 11.6%で、前回調査の 9.3%から微増した。

・性別にみると、DVを「振るわれたことがある」（男性 6.3%、女性 16.3%）割合は、女性の方が高くなっている。

・振るわれたDVの内容 ※上位3つ
　・大声で怒鳴る（63.0%）
　・誰のおかげで生活できるんだなどと言う（25.0%）
　・治療が必要とならないくらいの暴力（20.0%）

・被害経験がある人のうち、誰にも「相談しなかった」は 64.0%で、前回調査の 53.8%から増加した。

ドメスティック・バイオレンスに関する相談状況（前回調査との比較）



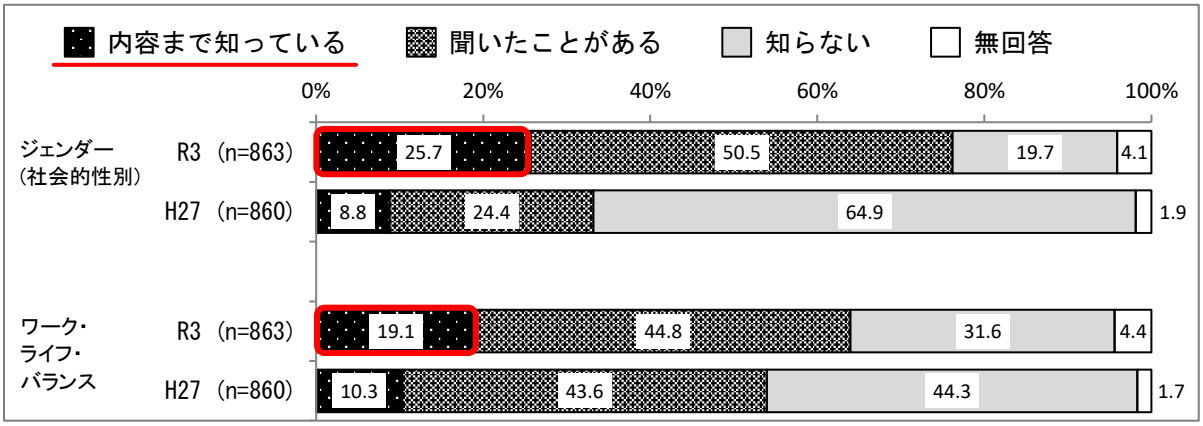
6. 男女共同参画社会に向けた法制度等について

男女共同参画社会に関する言葉の認知度〈問22〉

・「内容まで知っている」の割合　※上位3つ
　・ジェンダー（25.7%）
　・LGBTQ・性的少数者（25.4%）
　・男女雇用機会均等法（22.7%）

・前回調査と比べて、「内容まで知っている」は、「ジェンダー」（前回 8.8%→今回 25.7%）と「ワーク・ライフ・バランス」（前回 10.3%→19.1%）で増加した。

男女共同参画社会に関する言葉の認知度（前回調査との比較）

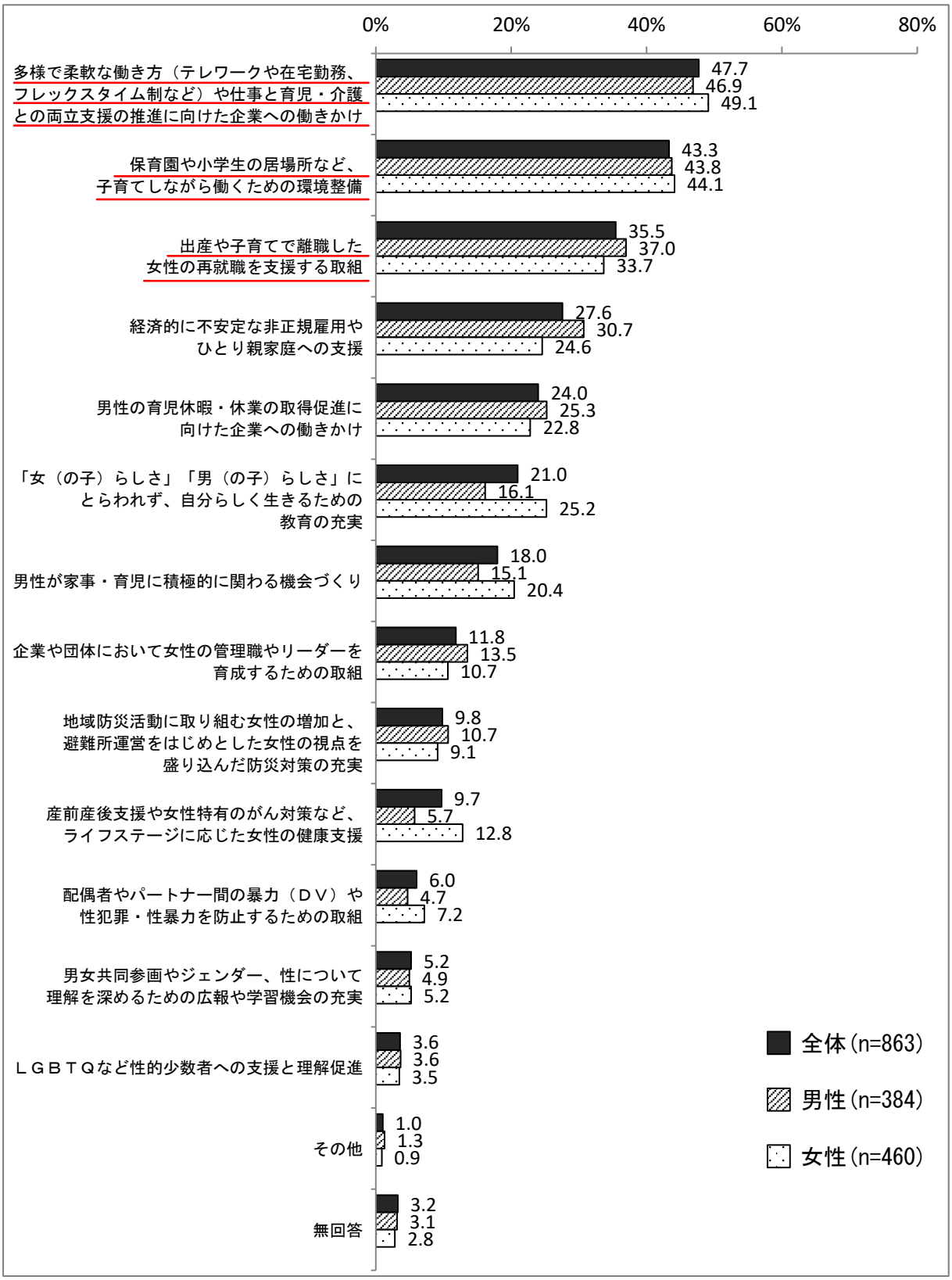


男女共同参画の推進のために市が力を入れるべきこと〈問23〉

※上位3つ

・多様で柔軟な働き方や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ（47.7%）

・保育園や小学生の居場所など、子育てしながら働くための環境整備（43.3%）

・出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組（35.5%）

男女共同参画の推進のために市が力を入れるべきこと